

第26回文京区政に関する世論調査

<要約版>

令和6年12月
文京区

このパンフレットは、令和6年8月から9月にかけて実施した「第26回文京区政に関する世論調査」のあらましです。

【調査概要】

■調査の設計

- | | |
|------------|----------------------------|
| (1) 調査地域 | 文京区全域 |
| (2) 調査対象 | 文京区在住の満18歳以上の個人（住民基本台帳による） |
| (3) 標本数 | 2,500サンプル |
| (4) 対象者の抽出 | 層化2段無作為抽出法（5地区に分類し対象者を抽出） |
| (5) 調査方法 | 郵送配布・郵送回収またはインターネット回答 |
| (6) 調査期間 | 令和6年8月26日（月）～9月9日（月） |
| (7) 調査機関 | 株式会社エスピー研 |

■調査結果

- | | |
|--------------|---------------------|
| (1) 標本数 | 2,500件 |
| (2) 有効回収数（率） | 1,032件（41.3%） |
| ・ 郵送回収 | 573件（有効回収数のうち55.5%） |
| ・ インターネット回答 | 459件（有効回収数のうち44.5%） |

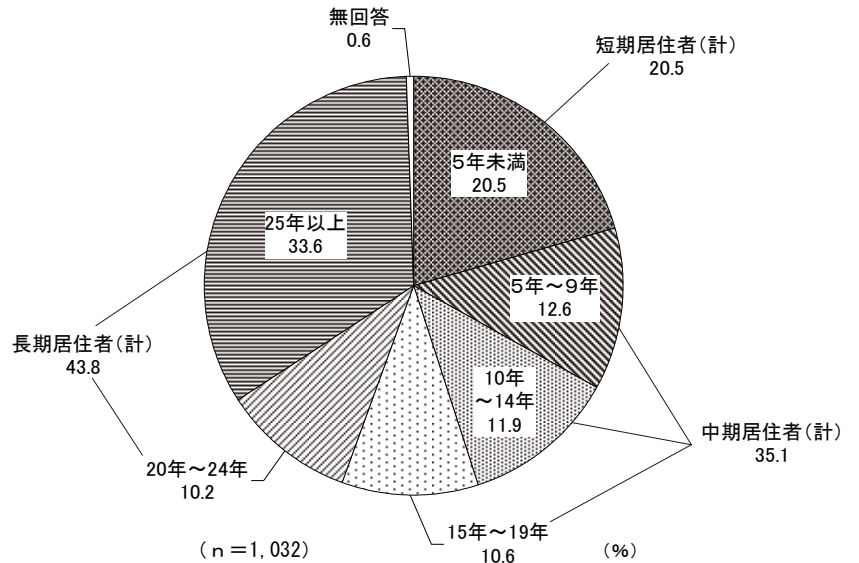
【要約版の見方】

- このパンフレットの数字はすべて回答者全員を100.0%とした比率（%）です。
- 小数点第2位を四捨五入しているため合計が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答の場合は、合計が100.0%を超えることがあります。
- “n”は各設問の回答者数（比率算出の基数）のことです。

定住意向

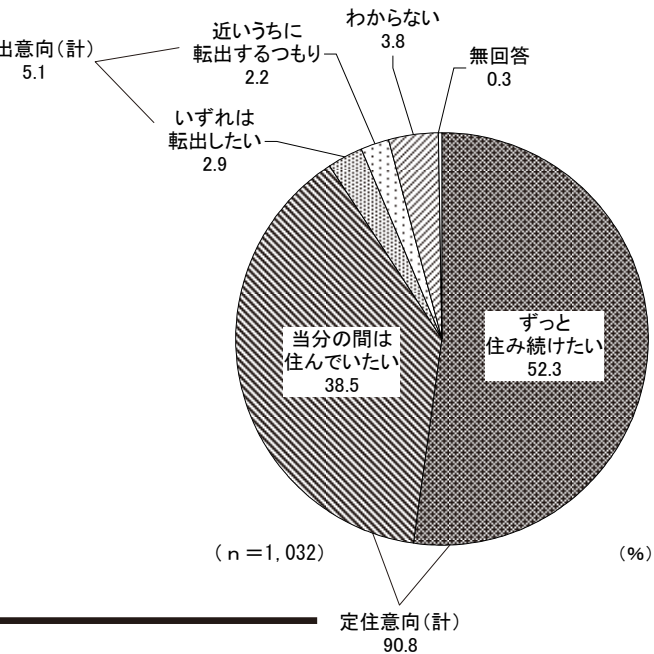
問 文京区にお住まいになって何年になりますか。

居住年数をたずねたところ、「5年未満」の『短期居住者(計)』(20.5%)が約2割、「5年～9年」(12.6%)、「10年～14年」(11.9%)、「15年～19年」(10.6%)を合わせた『中期居住者(計)』(35.1%)が3割半ば、「20年～24年」(10.2%)と「25年以上」(33.6%)を合わせた『長期居住者(計)』(43.8%)が4割を超えている。



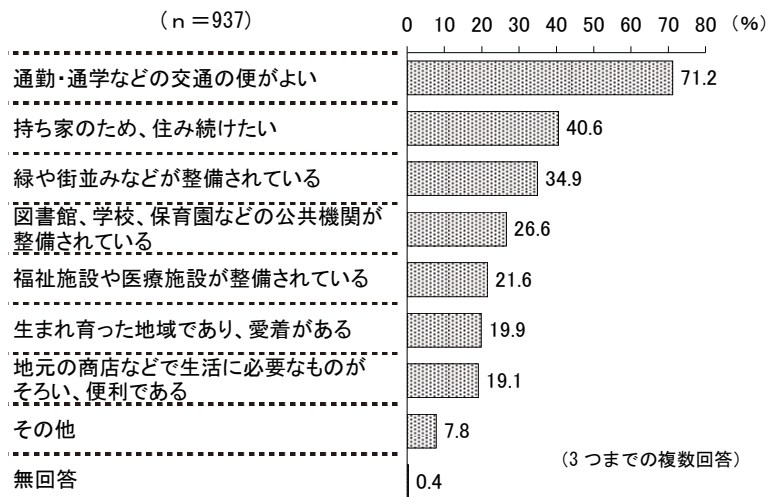
問 これからも文京区に住み続けたいと思いますか。

定住・転出意向をたずねたところ、これからも文京区に「ずっと住み続けたい」(52.3%)が5割を超え、これに「当分の間は住んでいたい」(38.5%)を合わせた『定住意向(計)』(90.8%)が約9割となっている。一方、「いずれは転出したい」(2.9%)と「近いうちに転出するつもり」(2.2%)を合わせた『転出意向(計)』(5.1%)は1割未満となっている。



問 住み続けたいと思う理由を3つ以内でお選びください。

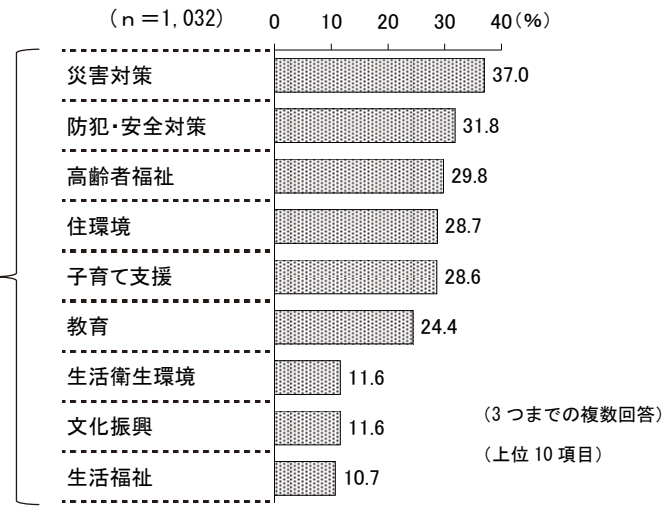
これからも文京区に「ずっと住み続けたい」または「当分の間は住んでいたい」と答えた方(937人)に、住み続けたい理由をたずねたところ、「通勤・通学などの交通の便がよい」(71.2%)が7割を超えて最も多く、次いで「持ち家のため、住み続けたい」(40.6%)、「緑や街並みなどが整備されている」(34.9%)、「図書館、学校、保育園などの公共機関が整備されている」(26.6%)などの順となっている。



区政運営

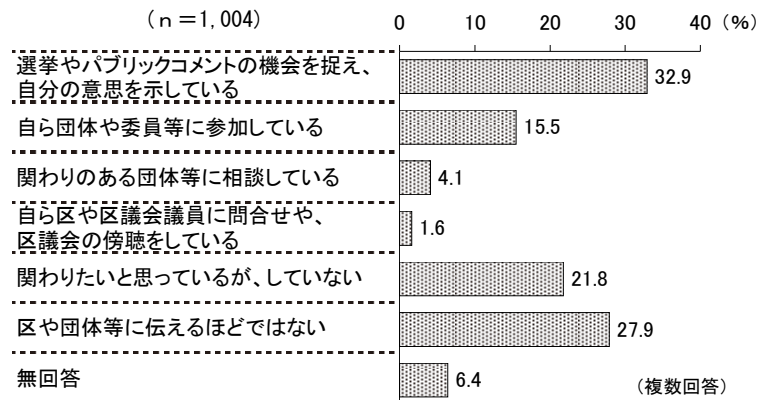
問 次の区の施策のうち、あなたが関心のある分野を、3つ以内でお選びください。

関心のある区の施策についてたずねたところ、「災害対策」(37.0%)が4割近くで最も多く、次いで「防犯・安全対策」(31.8%)、「高齢者福祉」(29.8%)、「住環境」(28.7%)などの順となっている。



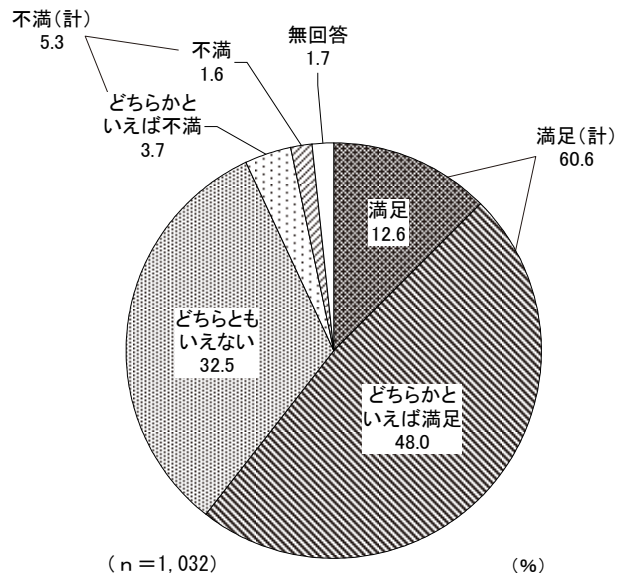
問 関心のある区の施策の分野について、どのように関わっていますか。

関心のある区の施策が「ある」と答えた方(1,004人)に、関心のある区の施策の分野について、どのように関わっているかたずねたところ、関わっている中では、「選挙やパブリックコメントの機会を捉え、自分の意思を示している」(32.9%)が3割を超えて最も多く、次いで「自ら団体や委員等に参加している」(15.5%)などの順となっている。



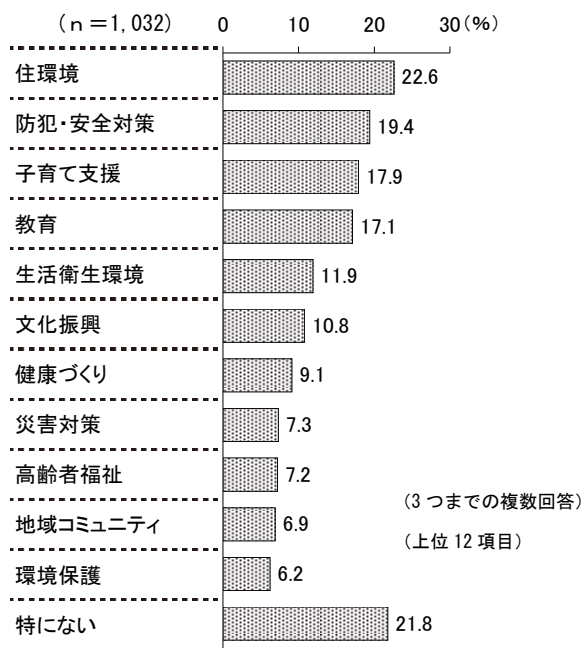
問 文京区の施策に対する満足度を教えてください。

区の施策に対する満足度についてたずねたところ、「満足」(12.6%)と「どちらかといえば満足」(48.0%)を合わせた『満足(計)』(60.6%)は約6割となっている。一方、「どちらかといえば不満」(3.7%)と「不満」(1.6%)を合わせた『不満(計)』(5.3%)は1割未満となっている。また、「どちらともいえない」(32.5%)は3割を超えている。



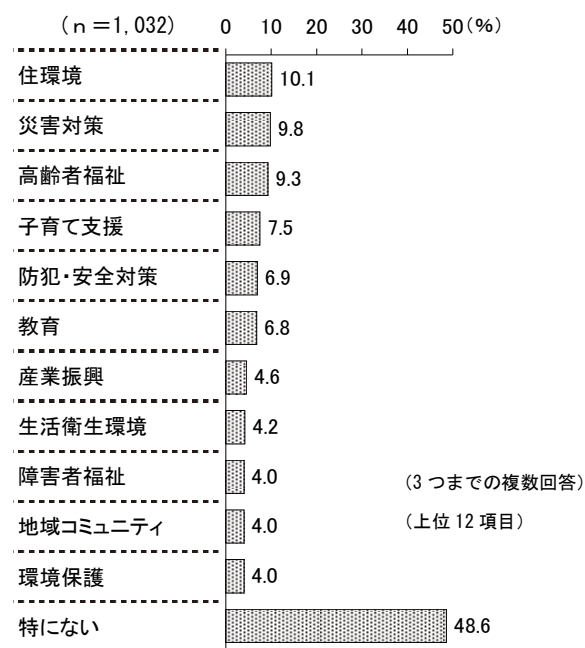
問 区の施策のうち、満足に感じているものを、3つ以内でお選びください。

満足に感じる区の施策についてたずねたところ、「住環境」(22.6%)が2割を超えて最も多く、次いで「防犯・安全対策」(19.4%)、「子育て支援」(17.9%)、「教育」(17.1%)などの順となっている。また、「特にない」(21.8%)は2割を超えている。



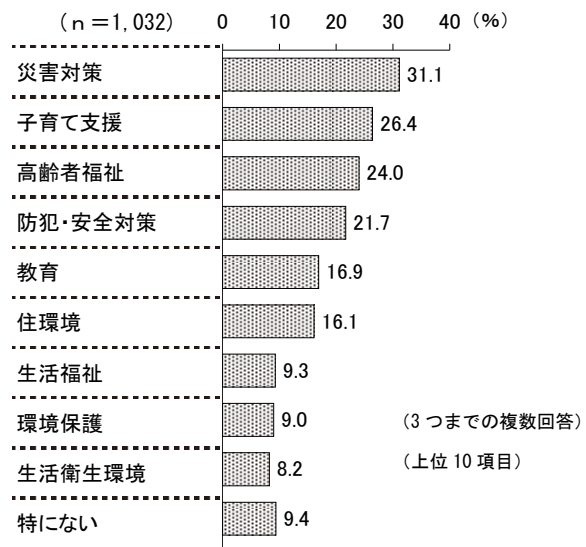
問 区の施策のうち、不満に感じているものを、3つ以内でお選びください。

不満に感じる区の施策についてたずねたところ、「住環境」(10.1%)、「災害対策」(9.8%)、「高齢者福祉」(9.3%)が約1割となっている。また、「特にない」(48.6%)は5割近くとなっている。



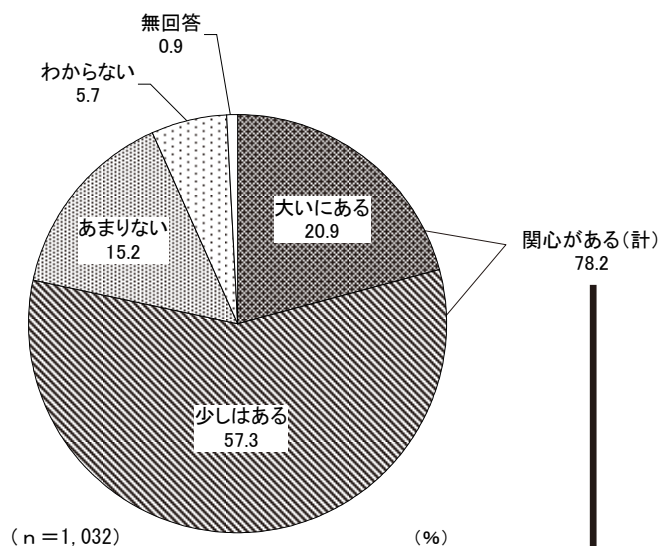
問 区の施策のうち、さらに力を入れるべきだと考えるものを、3つ以内でお選びください。

さらに力を入れてほしい区の施策についてたずねたところ、「災害対策」(31.1%)が3割を超えて最も多く、次いで「子育て支援」(26.4%)、「高齢者福祉」(24.0%)、「防犯・安全対策」(21.7%)などの順となっている。



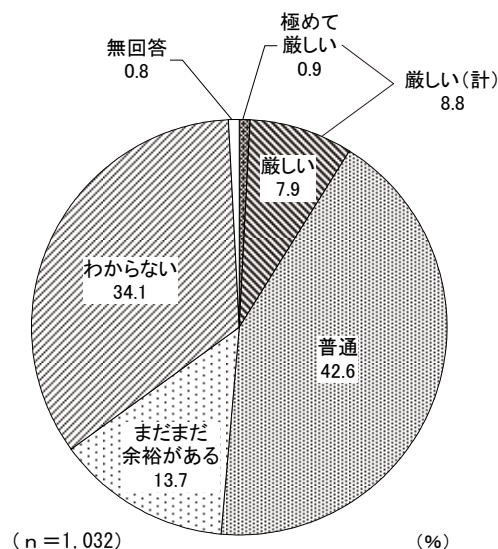
問 区の財政状況に関心がありますか。

区の財政状況に対する関心についてたずねたところ、「大いにある」(20.9%)と「少しはある」(57.3%)を合わせた『関心がある(計)』(78.2%)は8割近くとなっている。一方、「あまりない」(15.2%)は1割半ば、「わからない」(5.7%)は1割未満となっている。



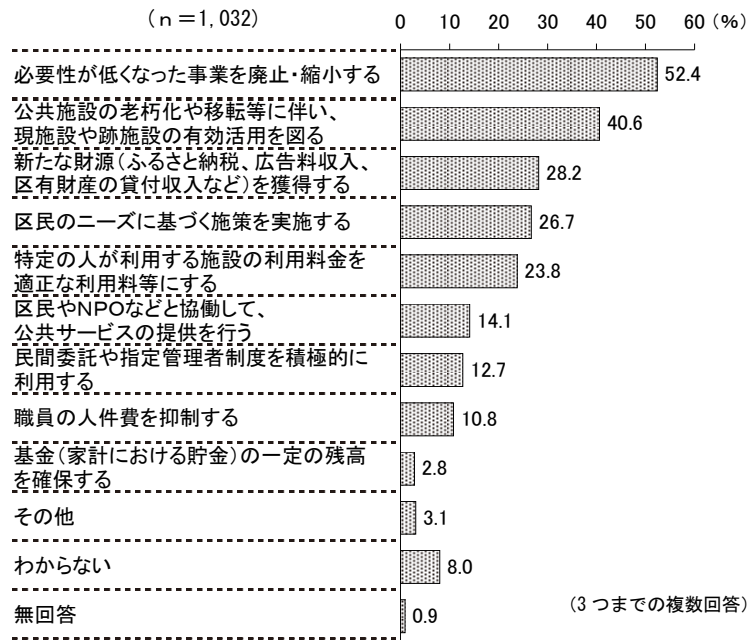
問 区の財政状況について、どのような印象をお持ちですか。

区の財政状況に対する印象についてたずねたところ、「普通」(42.6%)が4割を超えて最も多くなっている。「極めて厳しい」(0.9%)と「厳しい」(7.9%)を合わせた『厳しい(計)』(8.8%)は1割未満、「まだまだ余裕がある」(13.7%)は1割を超えている。



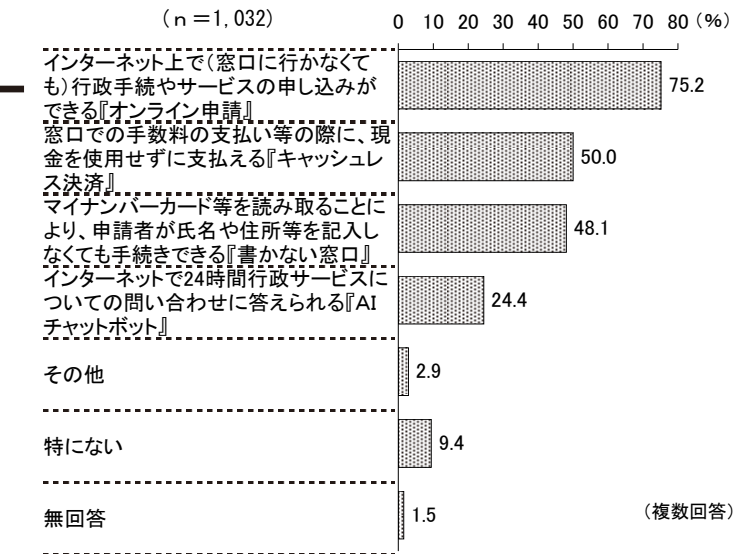
問 財政の健全化を更に進めていくには、今後どのようなことに力を入れていくべきだと考えますか。3つ以内でお選びください。

財政の健全化を更に進めていくために必要なことについてたずねたところ、「必要性が低くなった事業を廃止・縮小する」(52.4%)が5割を超えて最も多く、次いで「公共施設の老朽化や移転等に伴い、現施設や跡施設の有効活用を図る」(40.6%)、「新たな財源(ふるさと納税、広告料収入、区有財産の貸付収入など)を獲得する」(28.2%)、「区民のニーズに基づく施策を実施する」(26.7%)などの順となっている。



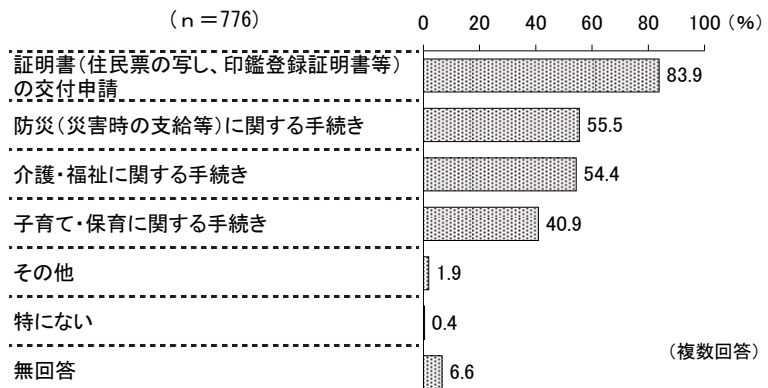
問 手続きのデジタル化により実現すると良いと思う区のサービスは何ですか。

手続きのデジタル化により実現すると良いと思う区のサービスについてたずねたところ、「インターネット上で(窓口に行かなくても)行政手続やサービスの申し込みができる『オンライン申請』」(75.2%)が7割半ばで最も多く、次いで「窓口での手数料の支払い等の際に、現金を使用せずに支払える『キャッシュレス決済』」(50.0%)などの順となっている。



問 インターネットで申請・届出等ができると思う行政手続や区のサービスは何ですか。

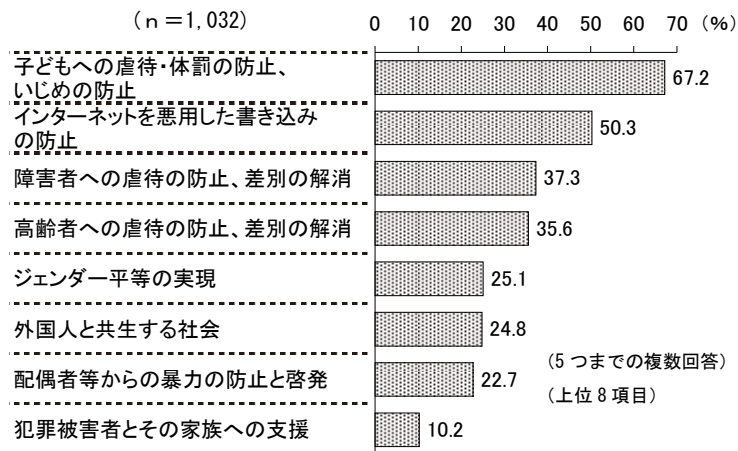
手続きのデジタル化により実現すると良いと思う区のサービスで「インターネット上で(窓口に行かなくても)行政手続やサービスの申し込みができる『オンライン申請』」と答えた方(776人)に、インターネットで申請・届出等ができると思う行政手続や区のサービスをたずねたところ、「証明書(住民票の写し、印鑑登録証明書等)の交付申請」(83.9%)が8割を超えて最も多く、次いで「防災(災害時の支給等)に関する手続き」(55.5%)、「介護・福祉に関する手続き」(54.4%)などの順となっている。



人権・ダイバーシティ

問 人権や差別・偏見についての問題の周知・理解や解決のために、区が今後どのようなことに力を入れていくべきと考えますか。5つ以内でお選びください。

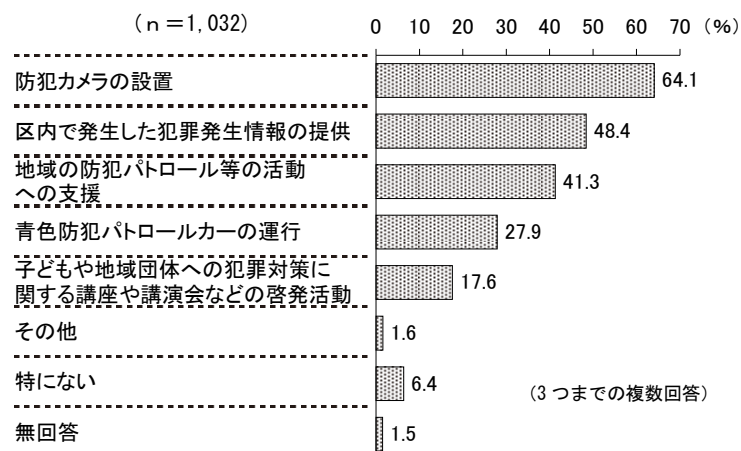
人権や差別・偏見問題に関して区が力を入れるべきものについてたずねたところ、「子どもへの虐待・体罰の防止、いじめの防止」(67.2%)が7割近くで最も多く、次いで「インターネットを悪用した書き込みの防止」(50.3%)、「障害者への虐待の防止、差別の解消」(37.3%)、「高齢者への虐待の防止、差別の解消」(35.6%)、「ジェンダー平等の実現」(25.1%)、「外国人と共生する社会」(24.8%)、「配偶者等からの暴力の防止と啓発」(22.7%)、「犯罪被害者とその家族への支援」(10.2%)などの順となっている。



防災・安全

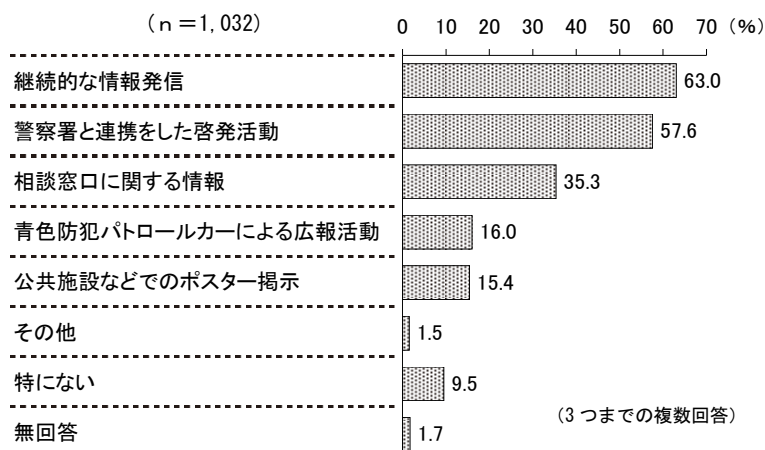
問 警察以外の区や地域団体等が行う防犯対策で強化してほしいことは何ですか。3つ以内でお選びください。

警察以外の区や地域団体等が行う防犯対策で強化してほしいことについてたずねたところ、「防犯カメラの設置」(64.1%)が6割半ばで最も多く、次いで「区内で発生した犯罪発生情報の提供」(48.4%)、「地域の防犯パトロール等の活動への支援」(41.3%)、「青色防犯パトロールカーの運行」(27.9%)などの順となっている。



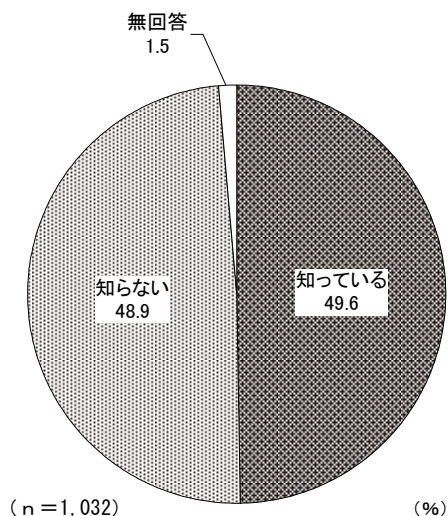
問 区が行う特殊詐欺対策で強化してほしいことは何ですか。3つ以内でお選びください。

特殊詐欺対策で強化してほしいことについてたずねたところ、「継続的な情報発信」(63.0%)が6割を超えて最も多く、次いで「警察署と連携をした啓発活動」(57.6%)、「相談窓口に関する情報」(35.3%)、「青色防犯パトロールカーによる広報活動」(16.0%)などの順となっている。



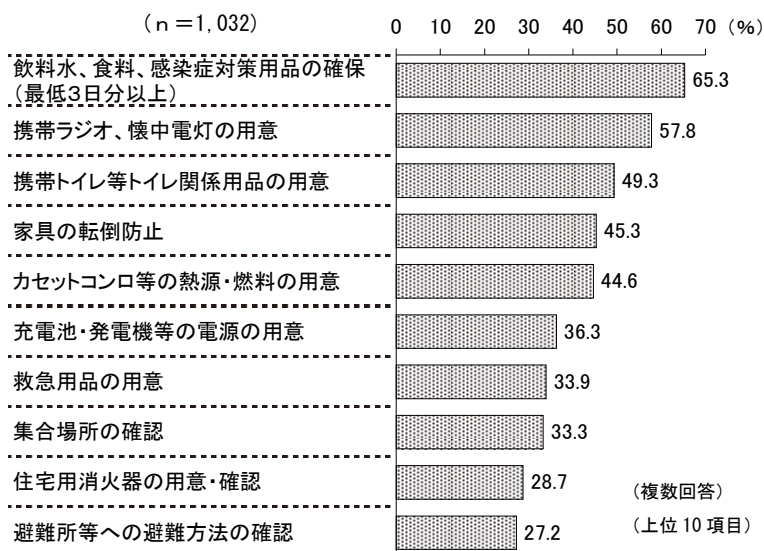
問 あなたは、災害時に自宅の損傷や倒壊の危険性が少ない場合は、避難所への避難ではなく、自宅での生活を継続する「在宅避難」を区が推進していることを知っていますか。

「在宅避難」を区が推進していることを知っているかたずねたところ、「知っている」(49.6%)が5割、「知らない」(48.9%)は5割近くとなっている。



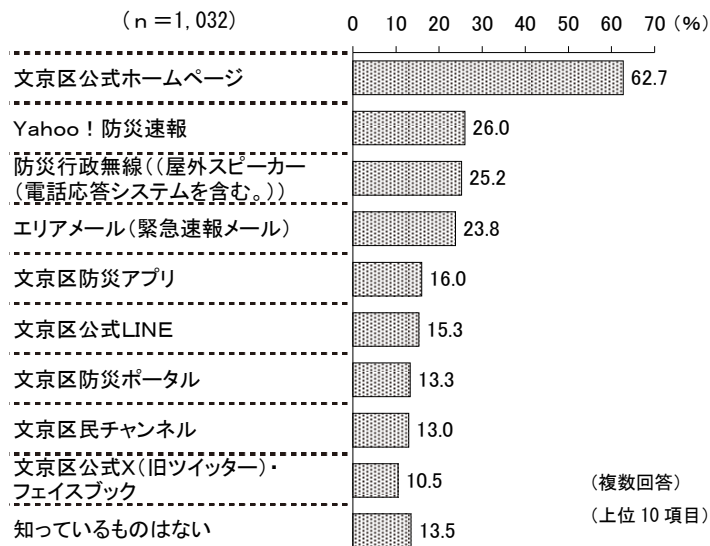
問 あなたは、災害に備えてどのような対策をしていますか。

災害への備えについてたずねたところ、「飲料水、食料、感染症対策用品の確保（最低3日分以上）」(65.3%)が6割半ばで最も多く、次いで「携帯ラジオ、懐中電灯の用意」(57.8%)、「携帯トイレ等トイレ関係用品の用意」(49.3%)、「家具の転倒防止」(45.3%)、「カセットコンロ等の熱源・燃料の用意」(44.6%)などの順となっている。



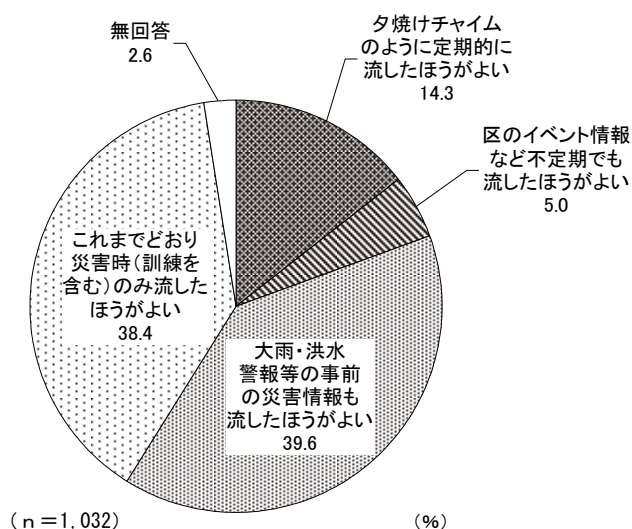
問 区からの災害情報の提供方法について、知っているものをすべてお選びください。

区からの災害情報の提供方法の認知度についてたずねたところ、「文京区公式ホームページ」(62.7%)が6割を超えて最も多く、次いで「Yahoo!防災速報」(26.0%)、「防災行政無線（屋外スピーカー（電話応答システムを含む。）」(25.2%)、「エリアメール（緊急速報メール）」(23.8%)などの順となっている。



問 区では、災害情報を広域的に伝達する目的で、「防災行政無線(屋外スピーカー)」を公園や区立学校等に設置しております。現在は、緊急性を強調するため、訓練を除き災害時のみ使用していますが、その使用方法について、あなたが最も適切と思うものをお選びください。

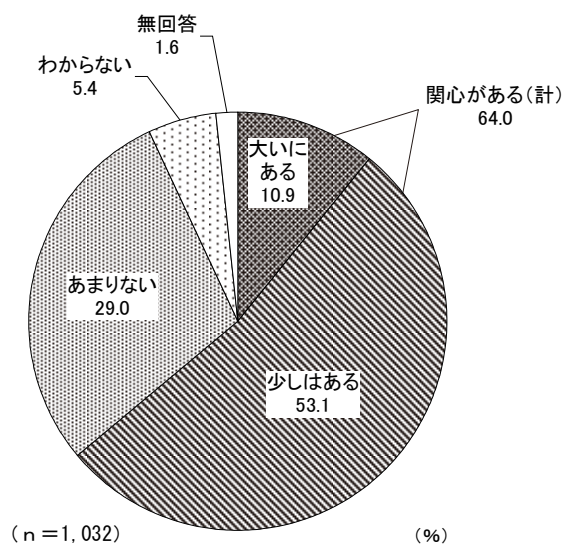
防災行政無線の使用方法についてたずねたところ、「大雨・洪水警報等の事前の災害情報も流したほうがよい」(39.6%)が4割で最も多く、次いで「これまでどおり災害時(訓練を含む)のみ流したほうがよい」(38.4%)、「夕焼けチャイムのように定期的に流したほうがよい」(14.3%)、「区のイベント情報など不定期でも流したほうがよい」(5.0%)の順となっている。



協働・協治

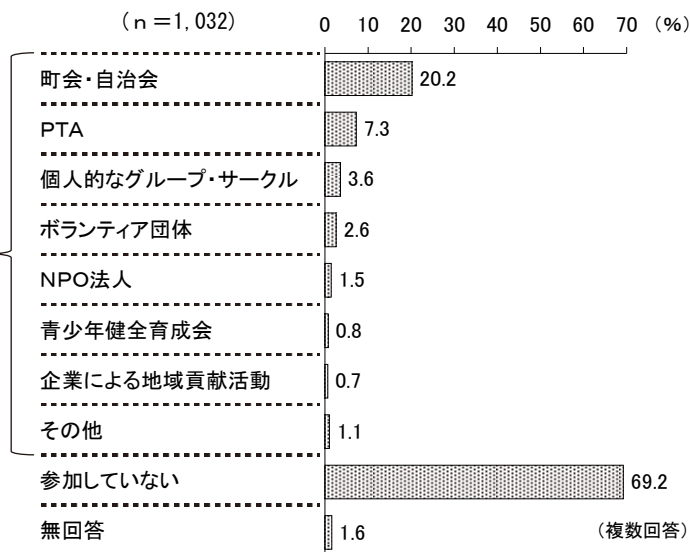
問 協働・協治とは、地域の課題解決のため、互いに連携・協力することを言いますが、お住まいの地域で実施されている活動に関心がありますか。

地域で実施されている活動への関心についてたずねたところ、「大いにある」(10.9%)と「少しはある」(53.1%)を合わせた『関心がある(計)』(64.0%)が6割半ばとなっている。一方、「あまりない」(29.0%)は約3割、「わからない」(5.4%)は1割未満となっている。



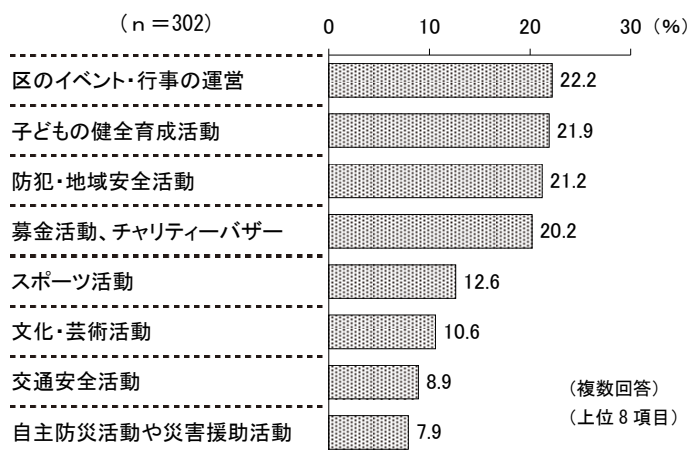
問 区内でNPO、ボランティア団体及び町会・自治会等の地域に貢献する活動を行っている団体、組織やグループの活動に参加していますか。次の中から参加しているものをすべてお選びください。

現在参加している地域活動についてたずねたところ、「町会・自治会」(20.2%)が2割で最も多く、次いで「PTA」(7.3%)、「個人的なグループ・サークル」(3.6%)などの順となっている。一方、「参加していない」(69.2%)は約7割となっている。



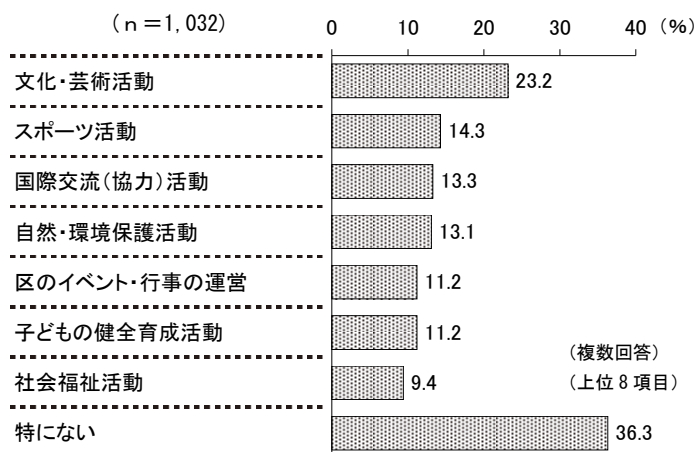
問 その活動はどのような分野ですか。参加しているものを、すべてお選びください。

「地域活動に参加している」と答えられた方(302人)に、参加している地域活動の分野についてたずねたところ、「区のイベント・行事の運営」(22.2%)が2割を超えて最も多く、次いで「子どもの健全育成活動」(21.9%)、「防犯・地域安全活動」(21.2%)、「募金活動、チャリティーバザー」(20.2%)などの順となっている。



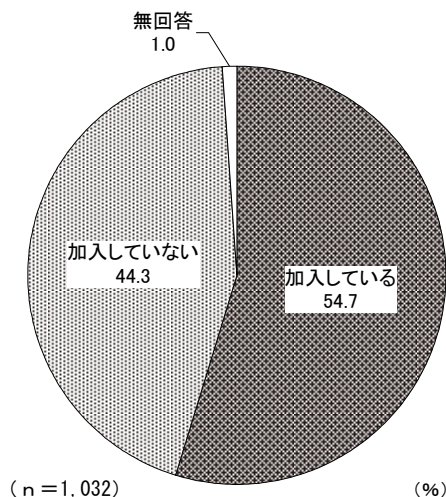
問 今後参加してみたいと思う地域での活動は、どのような分野ですか。すべてお選びください。

今後参加してみたい地域活動についてたずねたところ、「文化・芸術活動」(23.2%)が2割を超えて最も多く、次いで「スポーツ活動」(14.3%)、「国際交流(協力)活動」(13.3%)、「自然・環境保護活動」(13.1%)などの順となっている。一方、「特にない」(36.3%)は3割半ばとなっている。



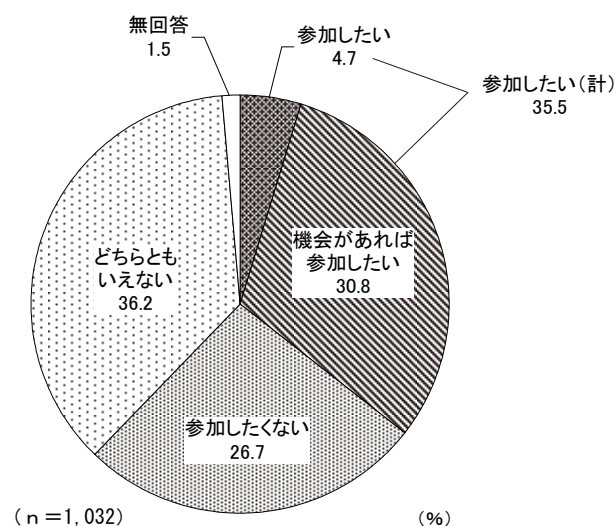
問 町会や自治会に加入していますか。

町会・自治会の加入状況についてたずねたところ、「加入している」(54.7%)が5割半ば、「加入していない」(44.3%)は4割半ばとなっている。



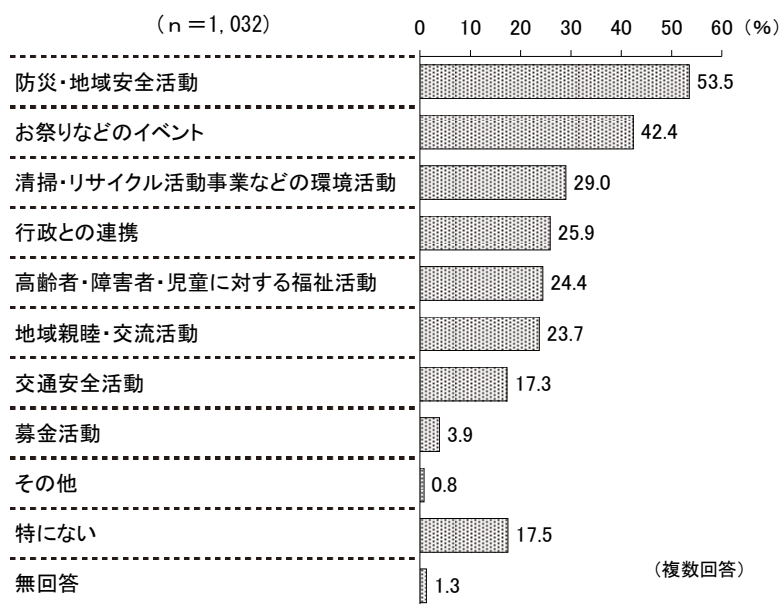
問 町会や自治会活動に参加したいと思いますか。

町会・自治会への参加意欲についてたずねたところ、「参加したい」(4.7%)と「機会があれば参加したい」(30.8%)を合わせた『参加したい(計)』(35.5%)が3割半ばとなっている。一方、「参加したくない」(26.7%)は3割近く、「どちらともいえない」(36.2%)は3割半ばとなっている。



問 町会・自治会に期待する内容はどのようなことですか。すべてお選びください。

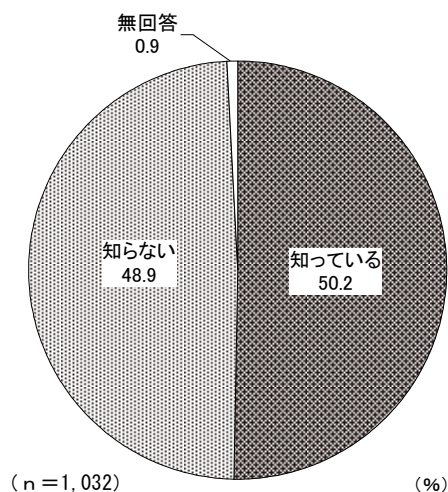
町会・自治会に期待することについてたずねたところ、「防災・地域安全活動」(53.5%)が5割を超えて最も多く、次いで「お祭りなどのイベント」(42.4%)、「清掃・リサイクル活動事業などの環境活動」(29.0%)、「行政との連携」(25.9%)などの順となっている。



消費者相談

問 区の消費生活センターに、消費者と事業者との間に生じたトラブルを相談する「消費者相談室」があることを知っていますか。

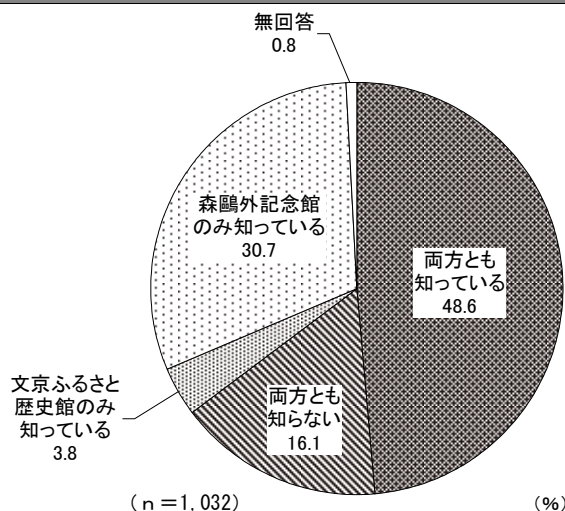
「消費者相談室」の認知度についてたずねたところ、「知っている」(50.2%)が5割、「知らない」(48.9%)は5割近くとなっている。



文化・芸術・スポーツ

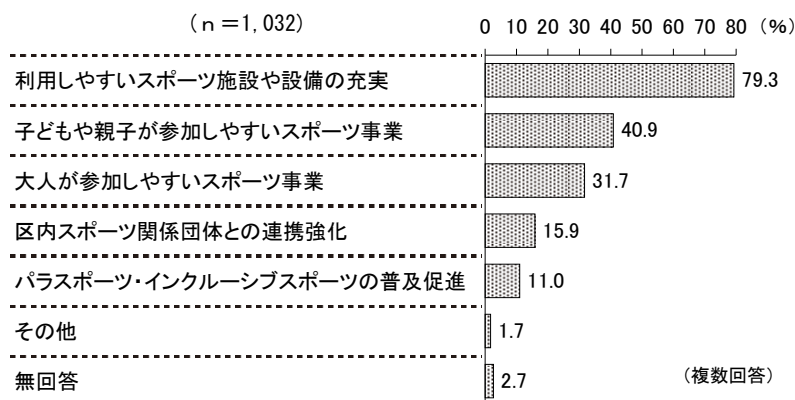
問 文京区に文京ふるさと歴史館と森鷗外記念館があることを知っていますか。

区に文京ふるさと歴史館と森鷗外記念館があることを知っているかたずねたところ、「両方とも知っている」(48.6%)が5割近くとなっている。また、「森鷗外記念館のみ知っている」(30.7%)が約3割、「文京ふるさと歴史館のみ知っている」(3.8%)は1割未満となっている。一方、「両方とも知らない」(16.1%)は1割半ばとなっている。



問 誰もが安心してスポーツに親しむことができる環境のためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものを選んでください。

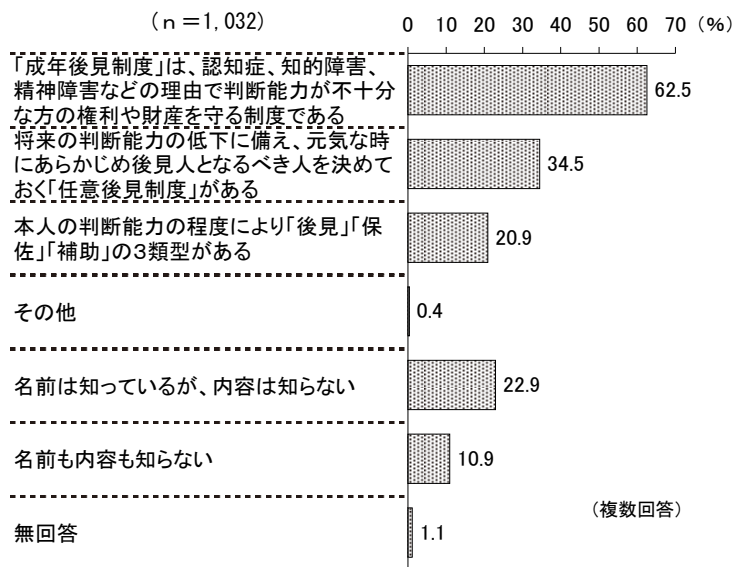
安心してスポーツに親しむことができる環境のために必要なことについてたずねたところ、「利用しやすいスポーツ施設や設備の充実」(79.3%)が約8割で最も多く、次いで「子どもや親子が参加しやすいスポーツ事業」(40.9%)、「大人が参加しやすいスポーツ事業」(31.7%)などの順となっている。



高齢者・障害者

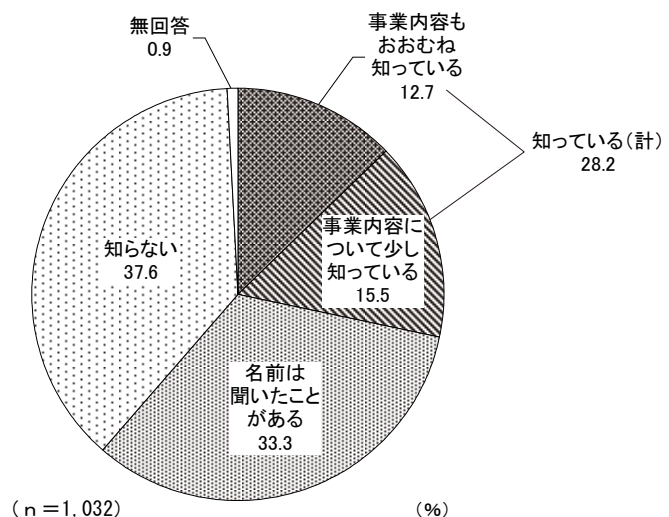
問 あなたは「成年後見制度」について、どのようなことを知っていますか。

成年後見制度に関する認知度についてたずねたところ、『『成年後見制度』は、認知症、知的障害、精神障害などの理由で判断能力が不十分な方の権利や財産を守る制度である』(62.5%)が6割を超えて最も多く、次いで「将来の判断能力の低下に備え、元気な時にあらかじめ後見人となるべき人を決めておく『任意後見制度』がある」(34.5%)などの順となっている。また、「名前は知っているが、内容は知らない」(22.9%)は2割を超え、「名前も内容も知らない」(10.9%)は約1割となっている。



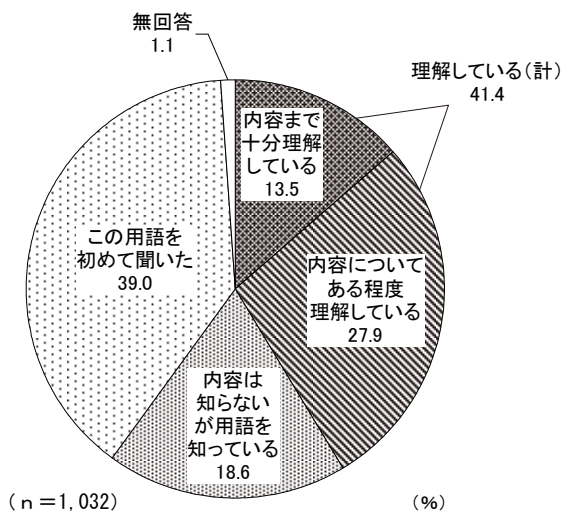
問 地域における高齢者の相談窓口である「高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター）」を知っていますか。

「高齢者あんしん相談センター」の認知度についてたずねたところ、「事業内容もおおむね知っている」(12.7%)と「事業内容について少し知っている」(15.5%)を合わせた『知っている(計)』(28.2%)が3割近く、「名前は聞いたことがある」(33.3%)は3割を超えている。一方、「知らない」(37.6%)は4割近くとなっている。



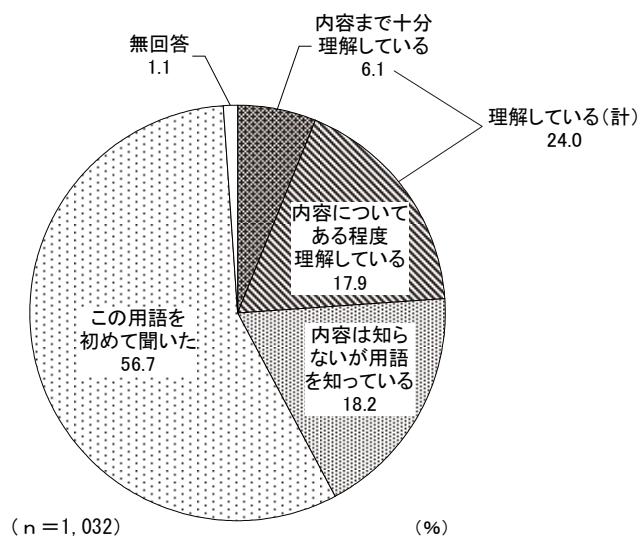
問 『フレイル』とは、年齢を重ねることで心身の活力が低下した「健康」と「要介護状態」の間を指す用語です。この用語について、次の中からあてはまるものをお選びください。

「フレイル」の認知度についてたずねたところ、「内容まで十分理解している」(13.5%)と「内容についてある程度理解している」(27.9%)を合わせた『理解している(計)』(41.4%)が4割を超え、「内容は知らないが用語を知っている」(18.6%)は2割近くとなっている。一方、「この用語を初めて聞いた」(39.0%)は約4割となっている。



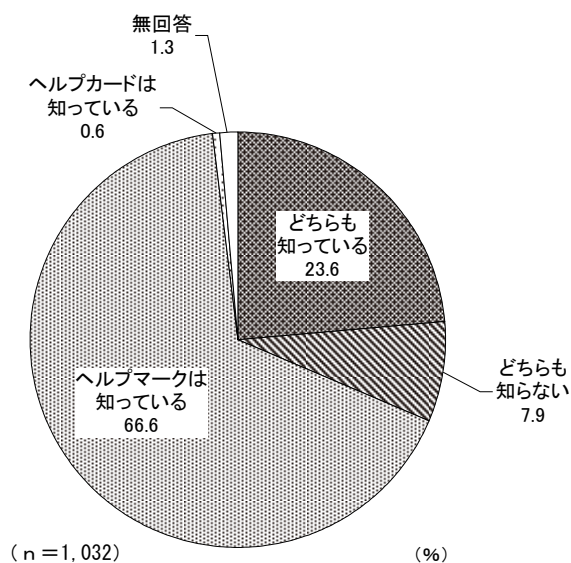
問 『合理的配慮』とは、障害のある人から申出があった場合、負担が大きくなる範囲で手助けすることを指す用語です。国や市町村、会社やお店に「合理的配慮」の提供が求められています。この用語について、次の中からあてはまるものをお選びください。

「合理的配慮」の認知度についてたずねたところ、「内容まで十分理解している」(6.1%)と「内容についてある程度理解している」(17.9%)を合わせた『理解している(計)』(24.0%)が2割半ば、「内容は知らないが用語を知っている」(18.2%)は2割近くとなっている。一方、「この用語を初めて聞いた」(56.7%)は6割近くとなっている。



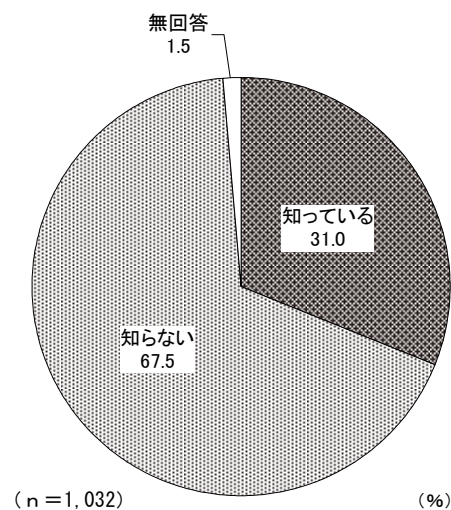
問 『ヘルプマーク』とは、外見からは分からなくても援助や配慮を必要としている人が、周囲の人に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう作成したマークです。かばんなど見えるところにつけています。『ヘルプカード』とは、障害のある人が、日常生活の中で困ったときや、緊急時に周囲の人に手助けを求める際に、必要な配慮や連絡先が記載されているカードです。次の中からあてはまるものをお選びください。

「ヘルプマーク」と「ヘルプカード」の認知度についてたずねたところ、「どちらも知っている」(23.6%)が2割を超えている。また、「ヘルプマークは知っている」(66.6%)は7割近く、「ヘルプカードは知っている」(0.6%)は1割未満となっている。一方、「どちらも知らない」(7.9%)は1割未満となっている。



問 区では、令和6年4月1日に「文京区手話言語条例」を制定しました。手話が、日本語とは異なる独自の文法をもつ言語であることを知っていますか。

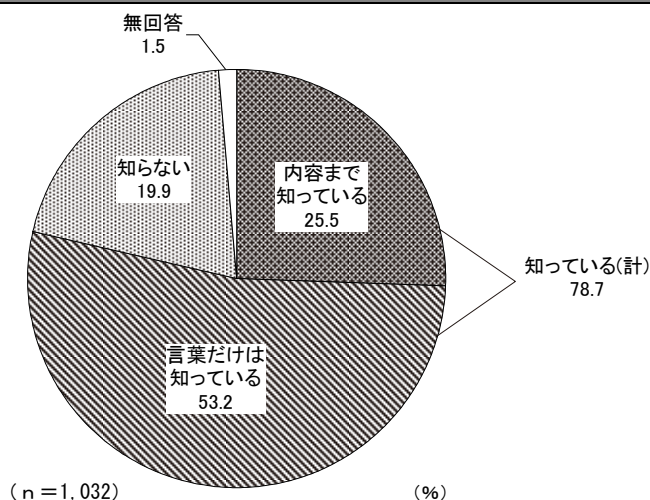
手話が日本語とは異なる独自の文法をもつ言語であることの認知度についてたずねたところ、「知っている」(31.0%)が3割を超え、「知らない」(67.5%)は7割近くとなっている。



子育て・教育

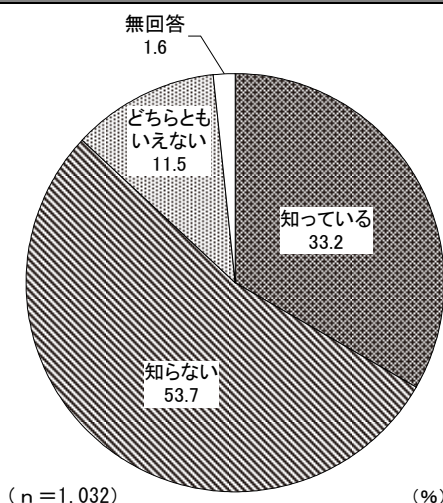
問 すべての子どもには、守られて育つことや自分の意見を自由に発言するなど、ありのままの自分で生きるために大切な「子どもの権利」があります。こうした「子どもの権利」があることを知っていますか。

「子どもの権利」の認知度についてたずねたところ、「内容まで知っている」(25.5%)と「言葉だけは知っている」(53.2%)を合わせた『知っている(計)』(78.7%)は8割近くとなっている。一方、「知らない」(19.9%)は2割となっている。



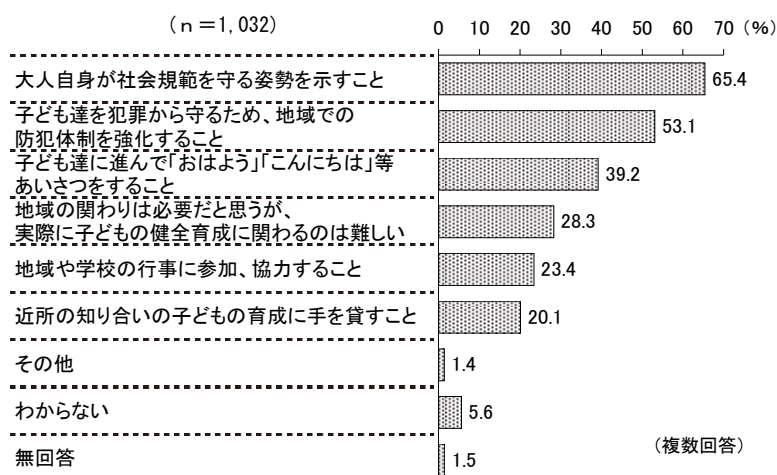
問 部活動で教員が行っている指導や運営について、地域のスポーツクラブ、専門的な団体や地域の方々などに部分的に協力してもらったり、全体的に任せたりする「部活動の地域連携・地域移行」の実現に向けて、環境の整備が段階的に進められていることを知っていますか。

「部活動の地域連携・地域移行」の実現に向けて、環境の整備が段階的に進められていることの認知度についてたずねたところ、「知っている」(33.2%)が3割を超え、「知らない」(53.7%)は5割を超えている。また、「どちらともいえない」(11.5%)は1割を超えている。



問 青少年健全育成に関して地域の大人たちができること、またやるべきことは何だと思えますか。

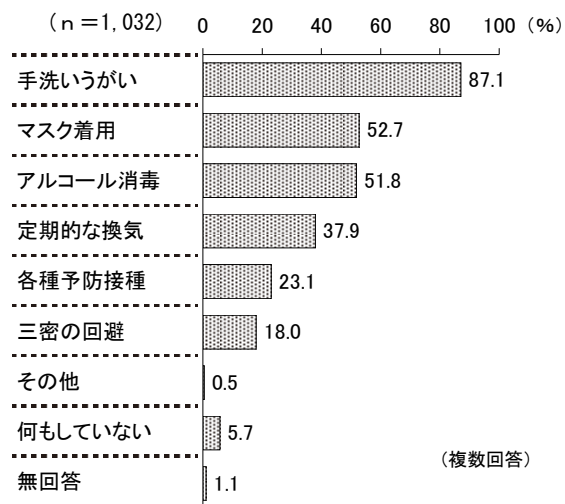
青少年健全育成に関して地域の大人たちが行うべきことについてたずねたところ、「大人自身が社会規範を守る姿勢を示すこと」(65.4%)が6割半ばで最も多く、次いで「子ども達を犯罪から守るため、地域での防犯体制を強化すること」(53.1%)、「子ども達に進んで『おはよう』『こんにちは』等あいさつをすること」(39.2%)などの順となっている。



健康・保健

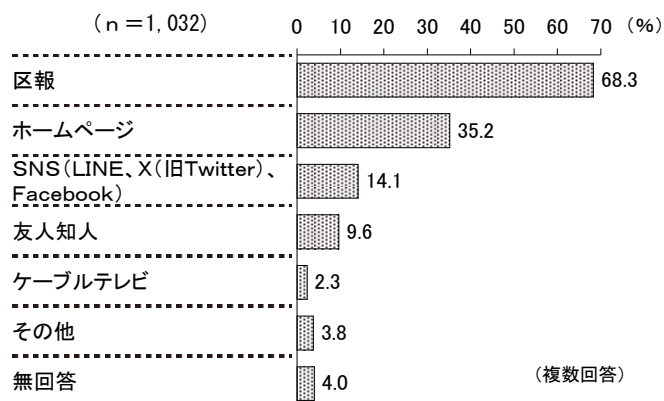
問 新型コロナウイルス感染症流行時に予防のために行ってた対策で、現在も引き続き行っている感染症対策は何ですか。

現在も引き続き行っている感染症対策についてたずねたところ、「手洗いうがい」(87.1%)が9割近くで最も多く、次いで「マスク着用」(52.7%)、「アルコール消毒」(51.8%)、「定期的な換気」(37.9%)などの順となっている。



問 区の保健医療施策（感染症、検診、予防接種、健康づくりなど）に関する情報をどのような方法で入手していますか。

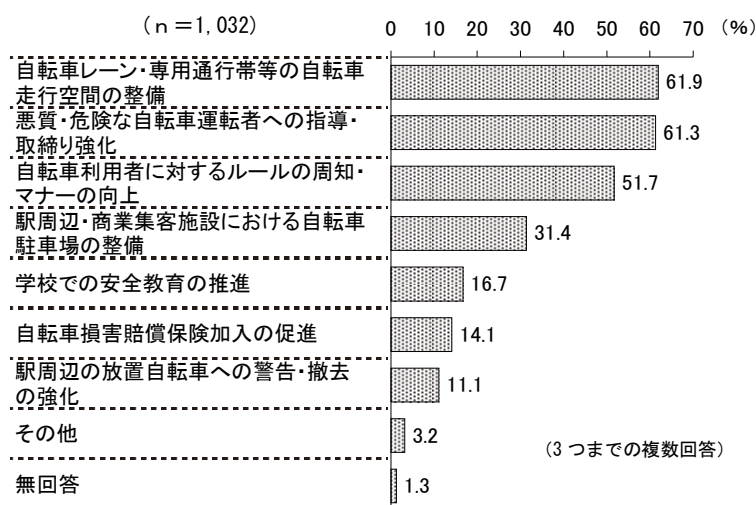
区の保健医療施策に関する情報の入手方法についてたずねたところ、「区報」(68.3%)が7割近くで最も多く、次いで「ホームページ」(35.2%)、「SNS (LINE、X (旧Twitter)、Facebook)」(14.1%)、「友人知人」(9.6%)などの順となっている。



住環境・まちづくり

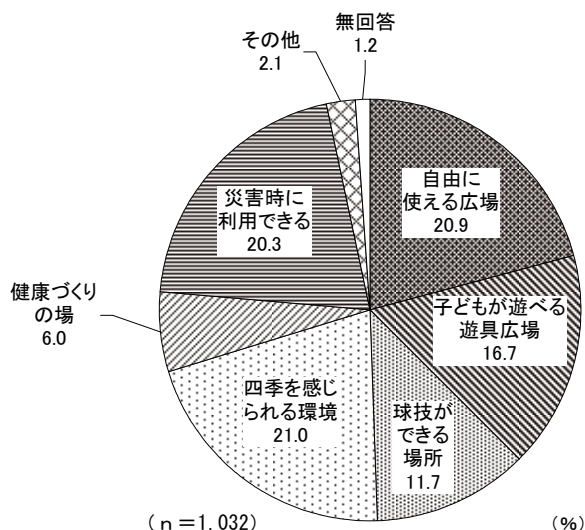
問 自転車の安全利用推進のために、重点を置くべきと思う施策について、3つ以内でお選びください。

自転車の安全利用推進のために、重点を置くべきと思う施策についてたずねたところ、「自転車レーン・専用通行帯等の自転車走行空間の整備」(61.9%)が6割を超えて最も多く、次いで「悪質・危険な自転車運転者への指導・取締り強化」(61.3%)、「自転車利用者に対するルールの周知・マナーの向上」(51.7%)、「駅周辺・商業集客施設における自転車駐車場の整備」(31.4%)などの順となっている。



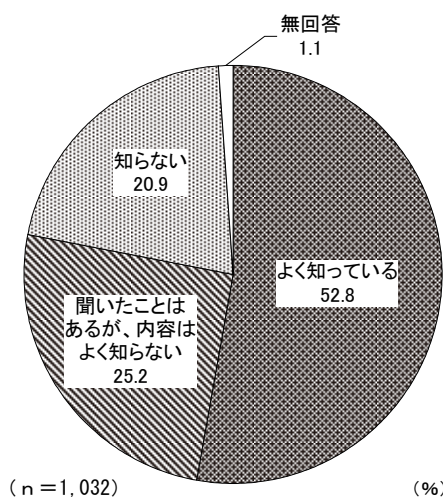
問 公園再整備にあたり、求める役割は何ですか。次の中から1つお選びください。

公園再整備にあたり、求める役割についてたずねたところ、「四季を感じられる環境」(21.0%)が2割を超えて最も多く、次いで「自由に使える広場」(20.9%)、「災害時に利用できる」(20.3%)、「子どもが遊べる遊具広場」(16.7%)などの順となっている。



問 令和2年7月から「文京区公共の場所における喫煙等の禁止に関する条例」が施行され、区内全域の道路や公園など、屋外の公共の場所での喫煙・ポイ捨てが禁止となりました。このことを知っていますか。

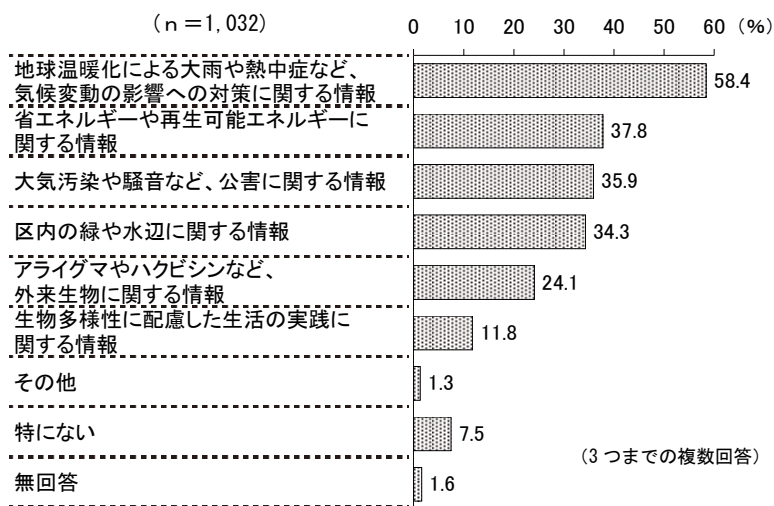
「文京区公共の場所における喫煙等の禁止に関する条例」の認知度についてたずねたところ、「よく知っている」(52.8%)が5割を超え、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」(25.2%)は2割半ばとなっている。一方、「知らない」(20.9%)は約2割となっている。



環境・循環型社会

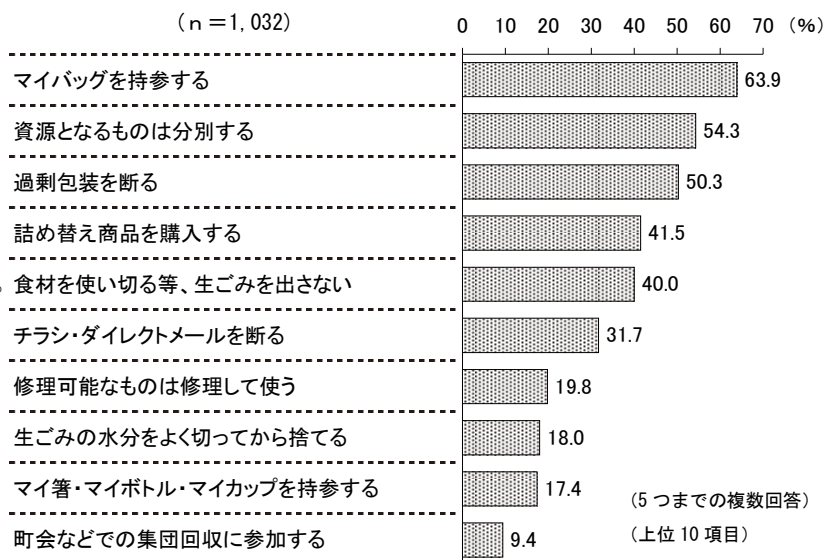
問 環境について、あなたが知りたいと考えるものは何ですか。次の中からあてはまるものを3つ以内でお選びください。

環境について知りたい情報についてたずねたところ、「地球温暖化による大雨や熱中症など、気候変動の影響への対策に関する情報」(58.4%)が6割近くで最も多く、次いで「省エネルギーや再生可能エネルギーに関する情報」(37.8%)、「大気汚染や騒音など、公害に関する情報」(35.9%)、「区内の緑や水辺に関する情報」(34.3%)などの順となっている。



問 文京区一般廃棄物処理基本計画（モノ・プラン文京）では、ごみ量について、令和3年度から12年度までの10年間で、区民1人1日当たりの総排出量及び家庭ごみ排出量の約20%削減を目標としています。あなたは、この目標を達成するために、どのようなことを実践すると良いとお考えですか。5つ以内でお選びください。

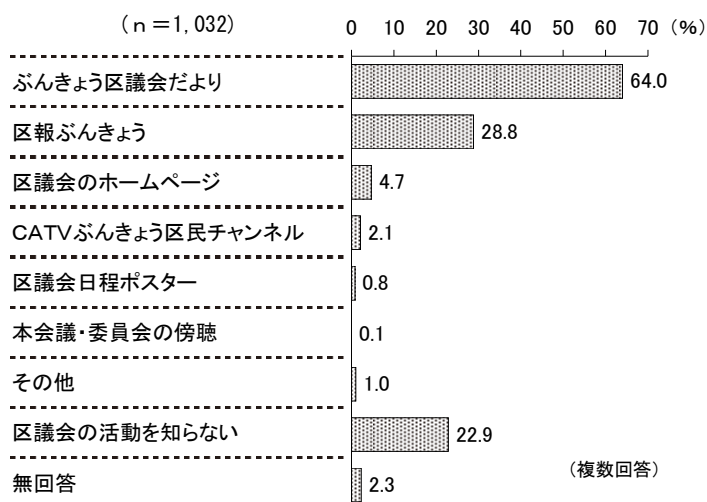
ごみ減量のために取り組むべきことについてたずねたところ、「マイバッグを持参する」(63.9%)が6割を超えて最も多く、次いで「資源となるものは分別する」(54.3%)、「過剰包装を断る」(50.3%)、「詰め替え商品を購入する」(41.5%)などの順となっている。



議会

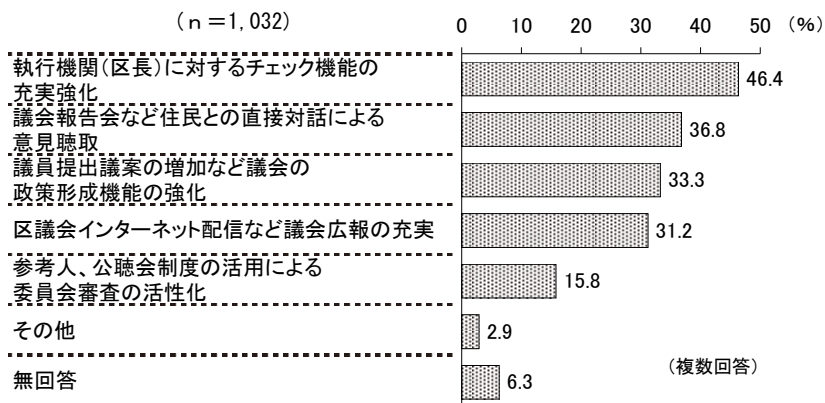
問 区議会の活動を、どのようにしてお知りになっていますか。

区議会の活動の認知媒体についてたずねたところ、「ぶんきょう区議会だより」(64.0%)が6割半ばで最も多く、次いで「区報ぶんきょう」(28.8%)、「区議会のホームページ」(4.7%)などの順となっている。一方、「区議会の活動を知らない」(22.9%)は2割を超えている。



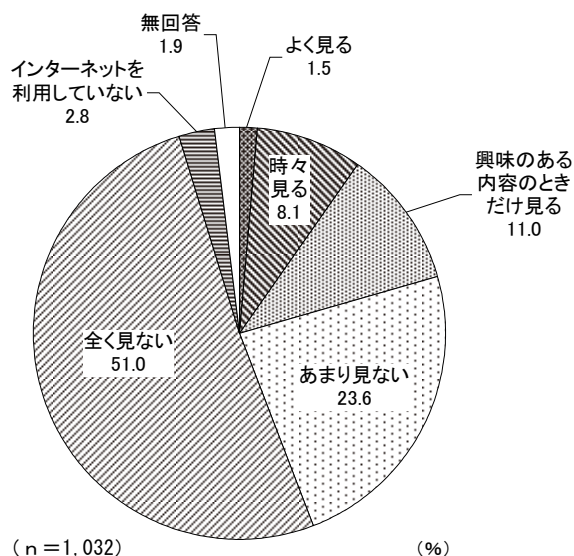
問 地方議会の活性化や議会改革が求められていますが、区議会の活動として期待することはどれですか。

区議会の活動として期待することについてたずねたところ、「執行機関(区長)に対するチェック機能の充実強化」(46.4%)が4割半ばで最も多く、次いで「議会報告会など住民との直接対話による意見聴取」(36.8%)、「議員提出議案の増加など議会の政策形成機能の強化」(33.3%)、「区議会インターネット配信など議会広報の充実」(31.2%)などの順となっている。



問 あなたは、区議会ホームページをどの程度閲覧されていますか。

区議会ホームページの閲覧頻度についてたずねたところ、「よく見る」(1.5%)と「時々見る」(8.1%)は1割未満、「興味のある内容のときだけ見る」(11.0%)は1割を超えている。一方、「あまり見ない」(23.6%)は2割を超え、「全く見ない」(51.0%)は5割を超えている。



第26回文京区政に関する世論調査 <要約版>

印刷物番号 A0324004

令和6年12月発行

[発行] 文京区企画政策部広報課
〒112-8555 文京区春日1丁目16番21号
☎ 03(5803)1129 (直通)

[実施] 株式会社エスピー研
〒102-0072 千代田区飯田橋3丁目11番20号
☎ 03(3239)0071 (代表)

資源有効利用のため再生紙を使用しています。